

【事業の経緯】

別添資料1

河川-3 川棚川総合流域防災事業の経緯

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B/C	概要
		着工	完了			
第1回審議 (H10)	事業採択後10年経過	S33	H16	132.0	4.36	改修延長 L=15,990m 築堤、河道掘削、護岸整備、橋梁架替等
第2回審議 (H15)	再評価後5年経過	S33	H17	136.0	2.73	改修延長 L=15,990m 築堤、河道掘削、護岸整備、橋梁架替等
第3回審議 (H18)	基本方針策定 平成17年11月	S33	H23	137.2	2.48	改修延長 L=15,990m 築堤、河道掘削、護岸整備、橋梁架替等
第4回審議 (H23)	再評価後5年経過	S33	H28	139.3	1.52	改修延長 L=15,990m 築堤、河道掘削、護岸整備、橋梁架替等
第5回審議 (H28:今回)	再評価後5年経過	S33	H30	140.5	1.69	改修延長 L=15,990m 築堤、河道掘削、護岸整備、橋梁架替等

チェックリストによる河川事業の再評価項目

河川名	川棚川	事業名	総合流域防災	事業区間	本川:河口～館橋上流 L=15,990m 支川:石木川他4河川 L=8,300m	
再評価の実施理由		事業再評価後5年経過(再々評価)				
未着工或いは事業が長期間要している理由		改修延長が長く、堰、橋梁等の構造物が多いため。環境に配慮した護岸整備等による事業費増のため。				
事業内容	事業目的	洪水に対し安全な河道を確保し、河川の氾濫を防止する。				
	事業実施内容	河道拡幅、河床掘削、築堤、護岸整備、橋梁架替、堰改築等				
	上位計画における位置づけ	長崎県長期総合計画チャレンジ2020 9-(4)-5(地震・大雨・台風・高潮などの自然災害に備えた施設整備など防災対策の推進)				
事業の進捗状況	目標流量	1,130m ³ /s	治水安全度		1/100	
	事業採択年	昭和33年	用地着手年	昭和33年	工事着工年	昭和33年
	全体事業費(内用地費)	140.5億円 (4.8億円)	投資事業費(内用地費)	137.9億円(進捗率 98.1%) (4.8億円)(進捗率 100.0%)		
	事業進捗状況	本川及び支川志折川・長野川・村木川・金屋川・石木川は、ほぼ完了。				
	一連の整備効果の発現状況	改修済み区間は、本川の江川橋付近の掘削を残して(計画流量の9割)、目標の流下能力を確保。				
事業に関する諸状況 事業を巡る社会情勢等の変化	現状での課題	事業を促進し、早期完成を図る。(H30年度完成予定)				
	災害発生時影響(想定氾濫区域内)					
	① 浸水戸数	: 1,582戸				
	② 農地浸水面積	: 186ha				
	③ 重要な公共施設等	: 中学校1、小学校1、警察署、駐在所、郵便局1、浄水場2、公民館3、勤労体育センター、生きがいセンター				
	④ 災害弱者関連施設	: 養護学校、病院4、幼稚園1、保育園4				
	⑤ その他	: 国道205号、県道5路線、町道他				
	過去の災害実績					
	① 主な被災年	: 昭和42年、昭和47年、平成2年				
	② 最大浸水戸数	: 803戸 (昭和42年)				
③ 最大浸水面積	: 461ha (昭和42年)					
④ 重要な公共施設等	: 警察署、浄水場1、公民館1					
⑤ 災害弱者関連施設	: 病院1、幼稚園1					
⑥ その他	: 国道205号、県道4号他					
災害発生の危険度						
① 改修目標流量に対する現況流下能力の割合	: 約90%				(事業着手時点)	
② 現況の治水安全度	: 1/30				(約15%) (1/2)	
地域の状況	① 地域開発の状況	: 大規模な開発計画は無く、人口の変動は少ない。				
	② 地域の協力体制	: 川棚町・波佐見町とも、町が主体となった積極的な協力を得ている。また、「波佐見の緑と水を考える会」などの河川愛護活動などが活発に行われている。				
	③ 関連事業との整合性の変化	: 石木ダム建設事業と一体となった計画で実施中。町が、当事業と一体となって整備する「圃場整備事業」、「桜づつみ整備事業」等は完成。				
	④ 地域の事業に対する社会的評価	: 平成2年にも水害が発生し、地域としては早期の治水対策が望まれている。町・地元の河川環境に対する意識が高く活動も活発で、「水辺の楽校推進協議会」等により、県と一体となって川づくりに取り組んでいる。				
	⑤ 事業の状況	: 残っている江川橋付近の掘削について、関係機関との調整に時間を要し事業期間が延びている。				
費用対効果分析	「治水経済調査マニュアル(案)」に基づき分析					
	総便益(B):	117,191	百万円			
	総費用(C):	69,396	百万円			
	B/C=	1.69				
再評価による今後の対応方針	事業継続					

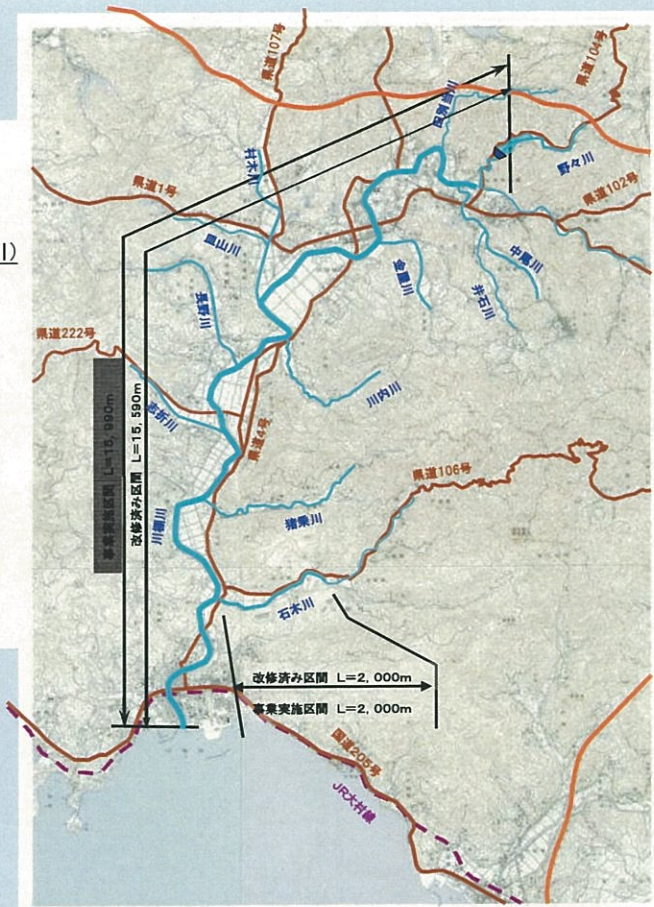
平成28年度
長崎県公共事業評価監視委員会

再評価対象事業

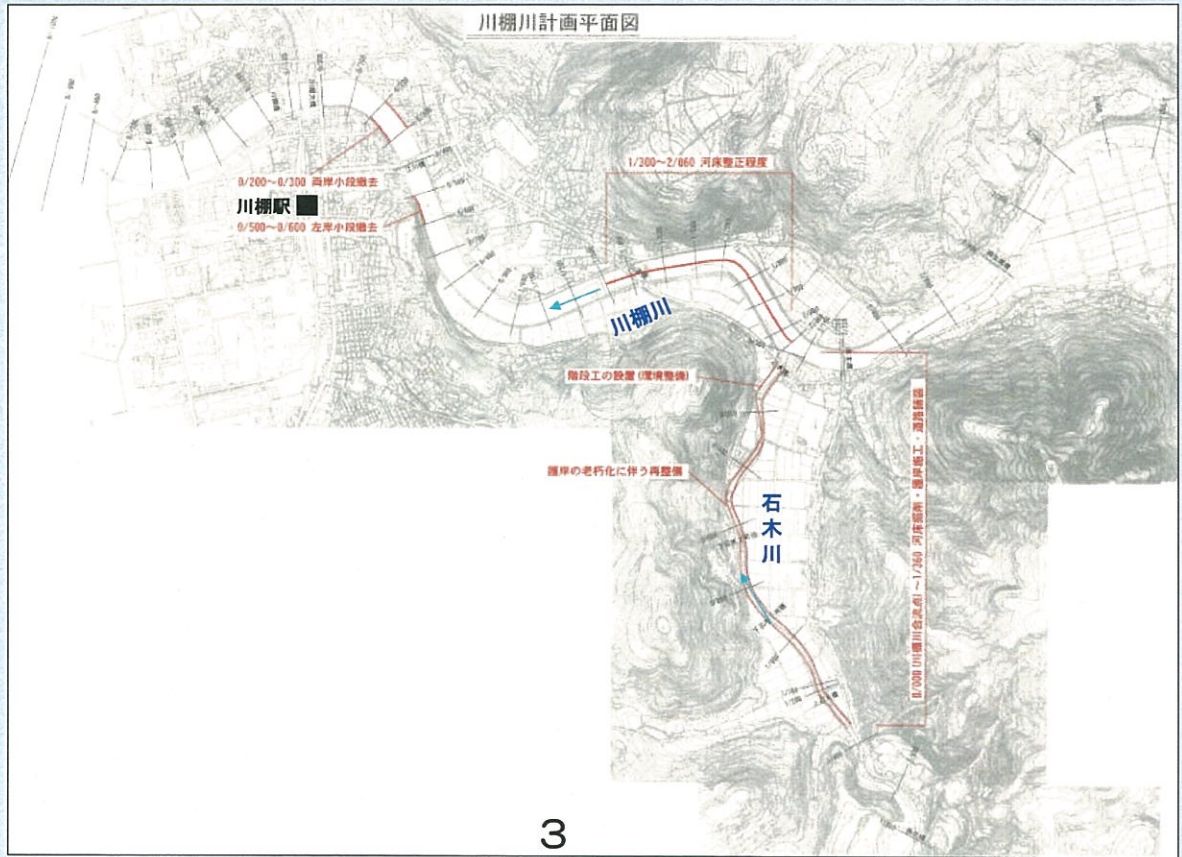
河川－3 総合流域防災事業
川棚川

長崎県

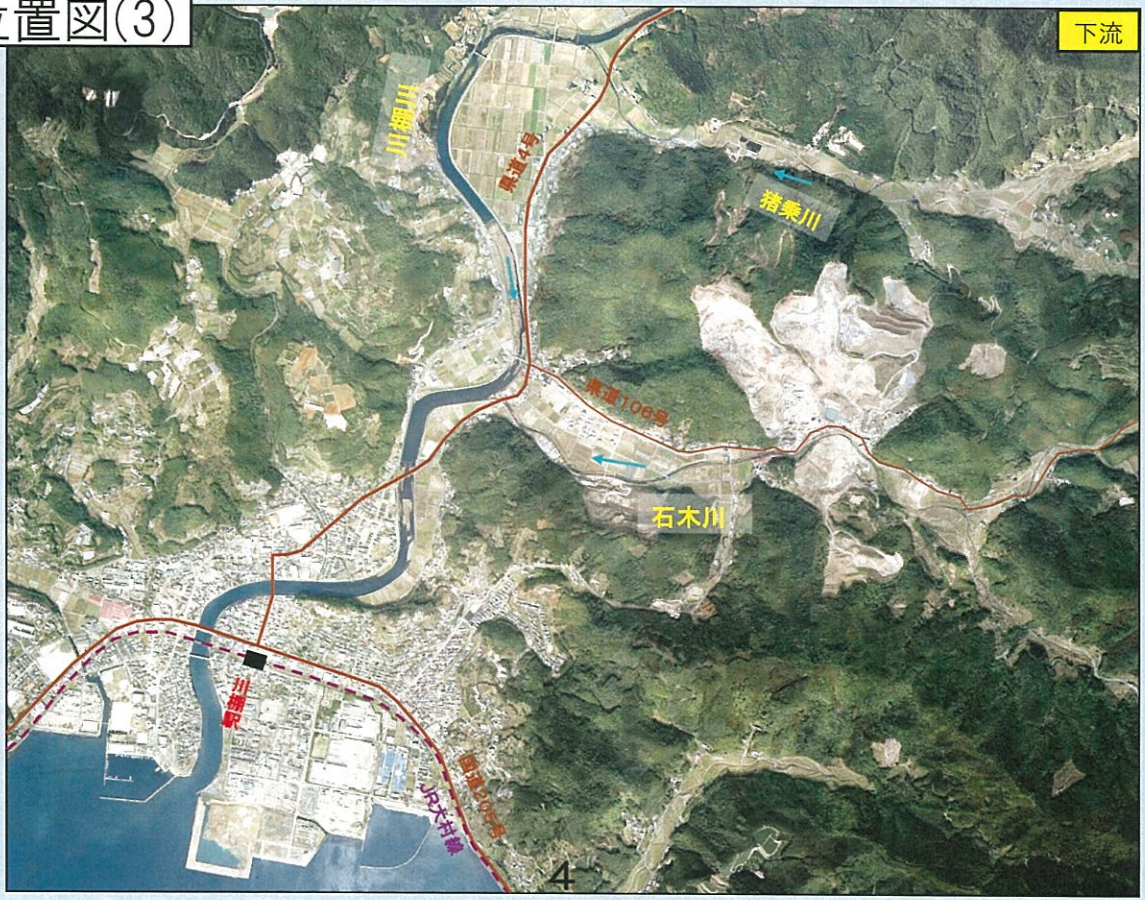
位置図(1)



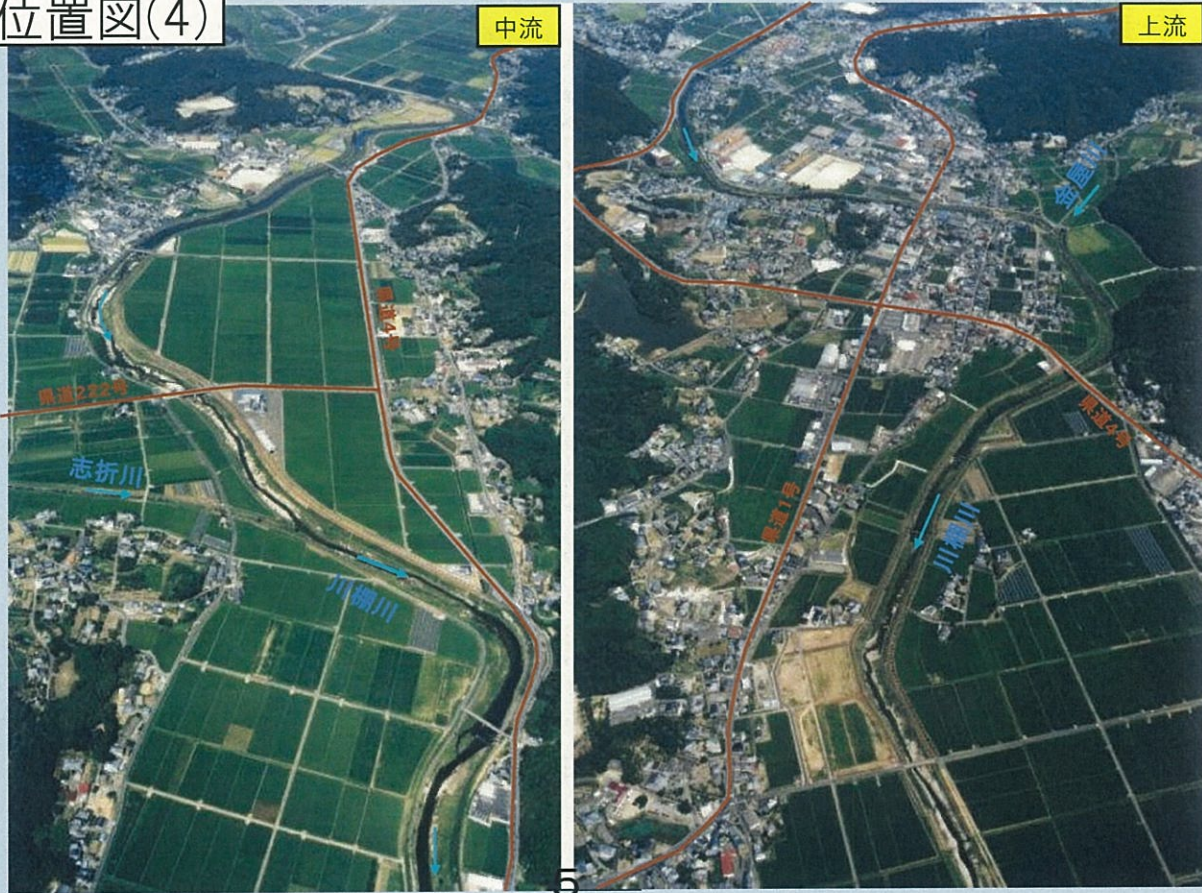
位置図(2)



位置図(3)

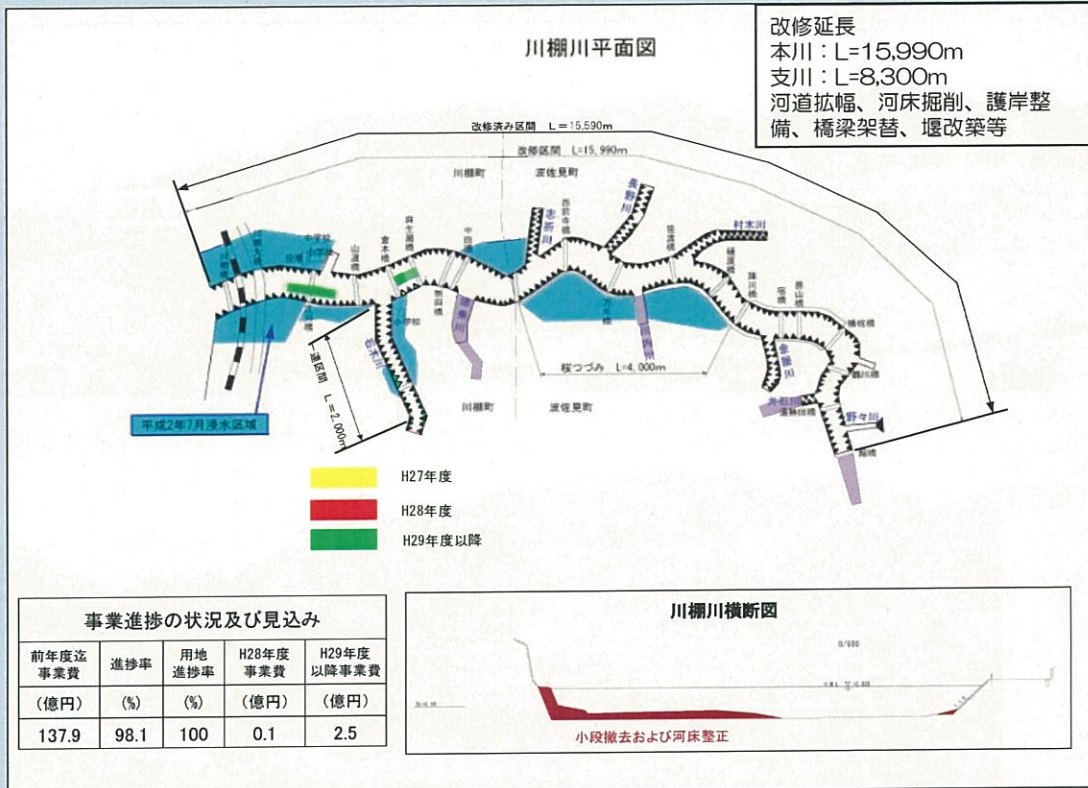


位置図(4)



事業概要

【事業目的】
洪水に対し安全な河道を確保し、河川の氾濫を防止する。



事業概要

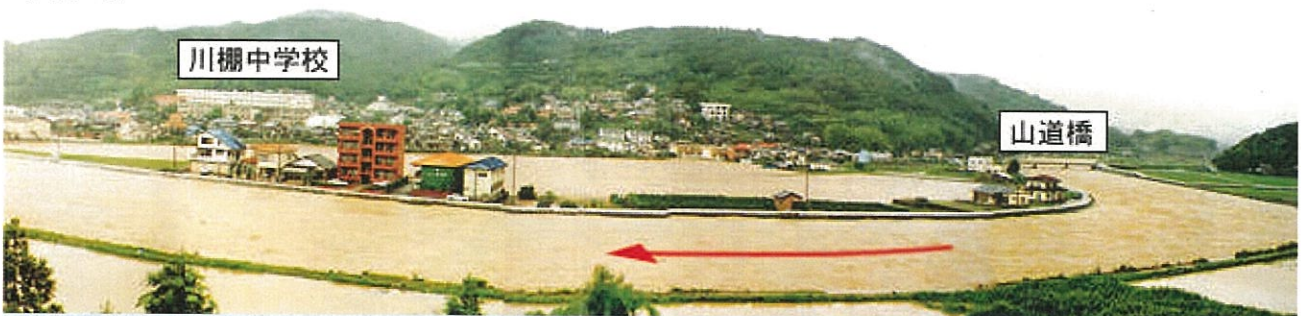


7

過去の被災写真

平成2年7月2日に発生した洪水時の基準点山道橋下流の被災状況。当時水田であった地区が、現在では宅地化されている。

(出水時)



(現在)



8

過去の被災写真

平成2年7月2日に発生した洪水時の状況

(下流域の浸水状況)

川棚橋から下流を望む



川棚大橋から下流を望む



(川棚町市街地の浸水状況)

江川橋から下流を望む



江川橋から上流を望む



9

過去の被災写真

平成2年7月2日に発生した洪水時の状況

(上流域の浸水状況)

万年橋付近氾濫状況



西前寺橋付近



10

現況写真

江川橋（0/400付近）上流で築堤及びパラペットによる堤防高を確保



江川橋上流（改修済）

（下流域）

山道橋（1/400付近）上流で山道堰の改築及び築堤及びパラペットによる堤防高を確保



山道橋上流（改修済）

志折橋（支川志折川合流点）



志折橋上流（改修済）

（中流域）

麻生瀬橋（2/800付近）下流で、築堤及び河道拡幅による整備を実施



麻生瀬橋下流（改修済）

11

現況写真

鹿山橋（12/000付近）上流で左岸側に築堤による河道の確保を実施



鹿山橋上流（改修済）

（上流域）

12/400付近で、同じく左岸側の築堤による河道の確保を実施



波佐見中央小学校付近（改修済）

上石木橋の施工済み



上石木橋（改修済）

（支川石木川）

上石木橋下流の改修済みの状況

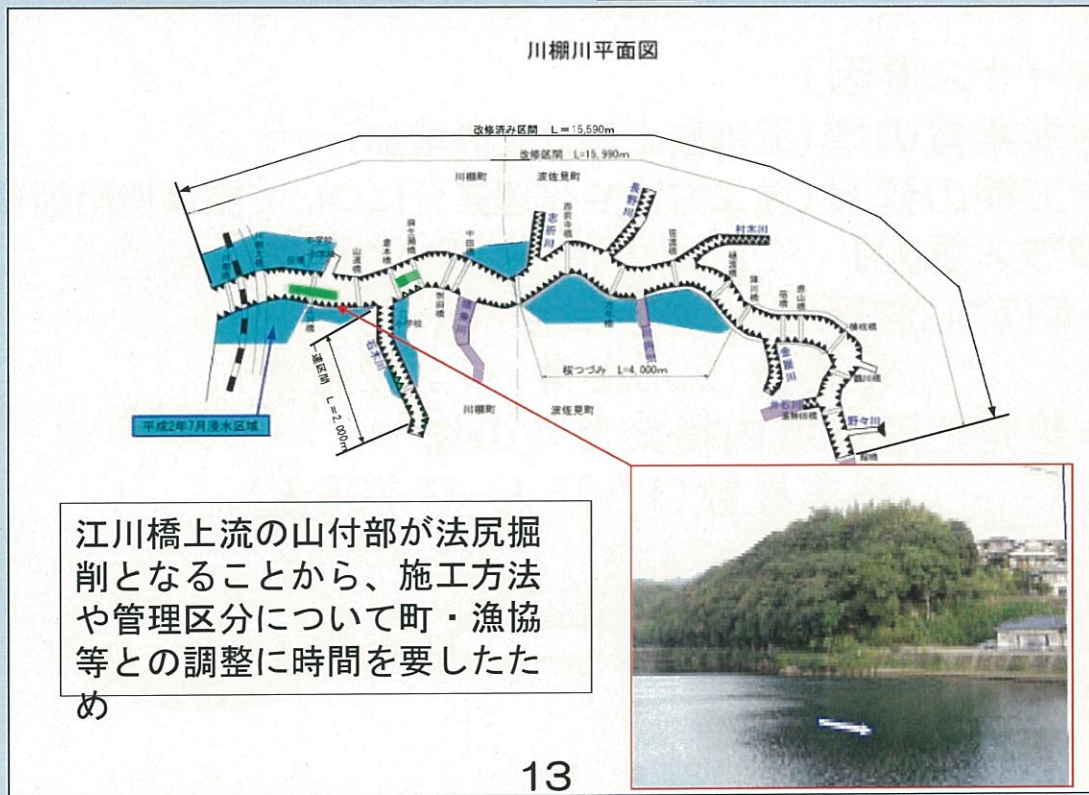


上石木橋下流（改修済）

12

再評価に至った理由（1）

【完了工期】H28(前回)→ H30(変更)



再評価に至った理由（2）

【事業費増】139.3億円(前回)→ 140.5億円(変更)

掘削残土処分費用の増加

〔事業費増の主な内容〕

事業費増の内容	増額	主な増額理由
①掘削	約1.0億円	掘削残土処分費の増
②その他(設計等)	約0.2億円	上記施工計画検討に伴う設計費の増加
計	約1.2億円	

費用対効果分析

【B/C】1.52(前回)→ 1.69(現行)

〔マイナス要因〕

- ・事業費の増(掘削残土処分費の増加)
- ・工期の延長(施工方法や管理区分について関係機関調整)

〔プラス要因〕

- ・想定氾濫区域内世帯の増
世帯数(908世帯→1,222世帯)
- ・想定氾濫区域内従業員数の増
従業員数(1,336人→1,706人)

対応方針
(原案)



事業継続

【事業の経緯】

別添資料1

河川-4 釣道川総合流域防災事業の経緯

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B/C	概要
		着工	完了			
第1回審議 (H13)	整備計画策定 平成13年6月 28日	H4	H20	24.5	2.54	改修延長 L=1,450m 河道拡幅、護岸整備、橋梁架替等
第2回審議 (H18)	再評価後 5年経過	H4	H25	29.9	2.16	改修延長 L=1,450m 河道拡幅、護岸整備、橋梁架替等
第3回審議 (H23)	再評価後 5年経過	H4	H29	29.9	2.19	改修延長 L=1,450m 河道拡幅、護岸整備、橋梁架替等
第3回審議 (H28:今回)	再評価後 5年経過	H4	H34	36.0	2.06	改修延長 L=1,450m 河道拡幅、護岸整備、橋梁架替等

チェックリストによる河川事業の再評価項目

河川名	釣道川	事業名	総合流域防災	事業区間	新上五島町 河口～青方ダム下流 L=1,450m
再評価の実施理由		再評価後5年経過(再々評価)			
未着工或いは事業が長期間要している理由		事業区間は新上五島町の中心部であり、家屋及び公共施設等と密接しており、改修計画及び工事に伴う調整等に期間を要したため。			
事業内容	事業目的	洪水に対し安全な河道を確保し、河川の氾濫を防止する。			
	事業実施内容	河道拡幅等に伴う河床掘削、護岸整備、橋梁架替え			
	上位計画における位置づけ	長崎県長期総合計画チャレンジ'2020 9-(4)-5(地震・大雨・台風・高潮などの自然災害に備えた施設整備など防災対策の推進)			
	目標流量	90m ³ /s	治水安全度	1/50	
事業の進捗状況	事業採択年	平成4年	用地着手年	平成6年	工事着工年 平成7年
	(今回増減額) 全体事業費 (内用地費)	(+6.1億) 36.0億円 (9.4億円)	投資事業費 (内用地費)	28.4億円(進捗率 78.9%) 9.0億円(進捗率 95.7%)	
	事業進捗状況	汐見橋上流から釣道橋下流までと、天神橋上流360m区間の拡幅、護岸等がほぼ完了			
	一連の整備効果の発現状況	汐見橋上流から釣道橋下流区間は、計画の80%流量、釣道橋上流区間では、天神橋上下流100m区間及び青方ダム下流300mを除き河道改修は完了している。			
事業に関する諸状況 事業を巡る社会情勢等の変化	現状での課題	事業を促進し、早期完成を図る。(H34年度完成予定)			
	災害発生時影響(想定氾濫区域内)				
	① 浸水戸数	: 256戸			
	② 農地浸水面積	: 0.48ha			
	③ 重要な公共施設等	: 新上五島町役場、青方小学校、郵便局、備蓄記念会館、公民館5			
	④ 災害弱者関連施設	: 青方幼稚園、上五島病院			
	⑤ その他	: 国道384号、県道170号、農協			
	過去の災害実績				
	① 主な被災年	: 平成元年			
	② 最大浸水戸数	: 249戸(平成元年9月)			
③ 最大浸水面積	: 29.9ha(平成元年9月)				
④ 重要な公共施設等	: 旧上五島町役場、青方小学校、郵便局、備蓄記念会館、公民館5				
⑤ 災害弱者関連施設	: 青方幼稚園、上五島病院				
⑥ その他	: 国道384号、県道170号、農協				
災害発生の危険度					
① 改修目標流量に対する現況流下能力の割合	: 50%程度(事業着手時点)				
② 現況の治水安全度	: 1/5程度(事業着手時点)				
地域の状況	① 地域開発の状況	: 特に開発計画はないが、新上五島町の中心部にあり公共施設等が集中している。			
	② 地域の協力体制	: 新上五島町を主体とした協力を得ている。			
	③ 関連事業との整合性の変化	: 青方北部土地区画整理事業完了(H元～15、事業費18.1億円、面積A=5.4ha)			
	④ 地域の事業に対する社会的評価	: 洪水氾濫被害に対する安全確保のため、河川改修事業の早期完成が望まれている。			
	⑤ 事業の状況	: 関係機関等の調整に期間を要し、工期は延びているが、進捗は図られている。			
費用対効果分析	「治水経済調査マニュアル(案)」に基づき分析				
	総便益(B):	13,009 百万円			
	総費用(C):	6,306 百万円			
	B/C=	2.06			
再評価による今後の対応方針	事業継続				

平成28年度
長崎県公共事業評価監視委員会

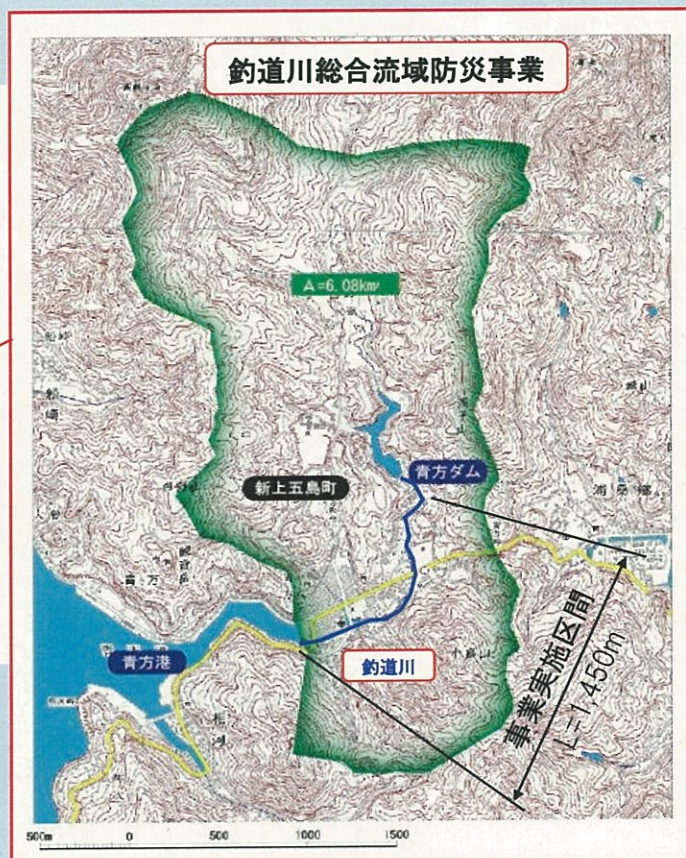
再評価対象事業

河川－4 総合流域防災事業
釣道川

長崎県

1

位置図



2

事業概要

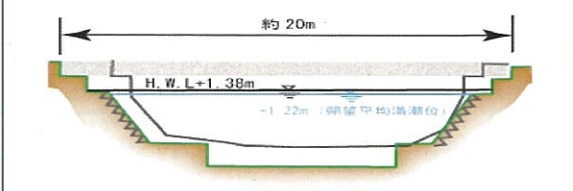
改修延長
L=1,450m
河道拡幅、河床掘削
護岸整備、橋梁架替え

- 改修済み区間
- H27年度実施区間
- H28年度実施区間
- 未改修区間

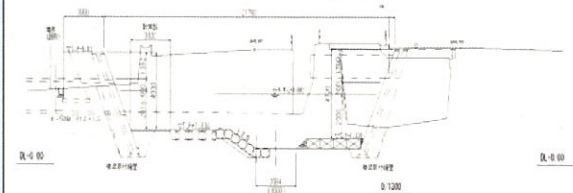


河口から青方ダムまでの1,450mの河川整備を行い、洪水に対して安全な河道を確保し、河川の氾濫の防止図ります。

横断面図



0/860 (天神橋)



前年度迄 事業費	進捗率	用地 進捗率	H27年度 事業費	H28年度以 降事業費
億円	%	%	億円	億円
27.3	75.9	96.0	1.1	8.7

事業概要



過去の被災写真

平成元年9月12日洪水による洪水被害状況

新上五島町の中心市街地浸水状況



新上五島町役場周辺の浸水状況



5

現況写真

下流区間

下流区間は河床掘削を残し改修済み

汐見橋上流
(0/080)



中流区間

現在、天神橋の架替え及び取付け護岸等の施工中

天神橋
(0/860)



上流区間

最上流部の青方ダム直下流区間が未改修

青方ダム直下流
(1/360)



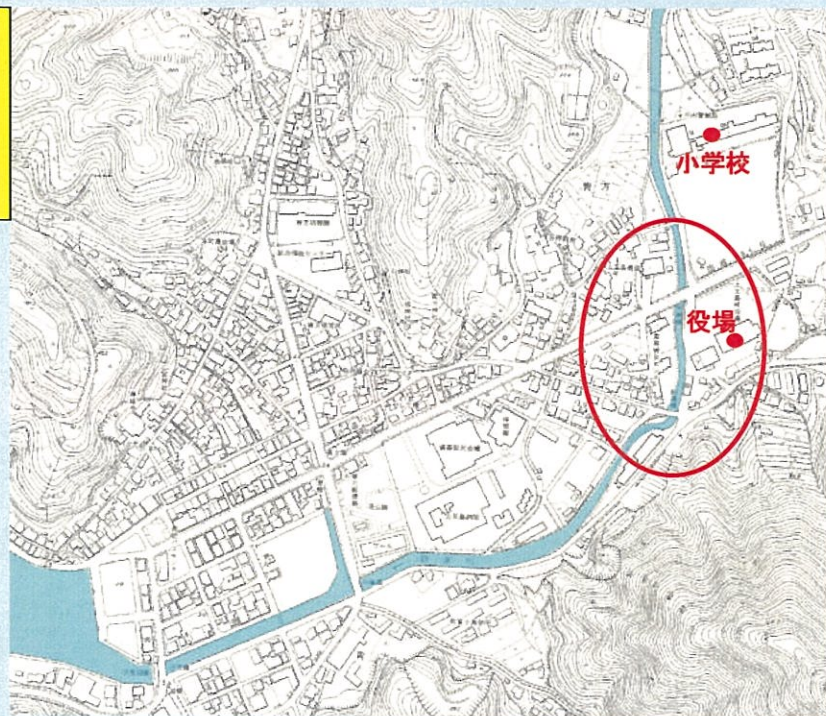
6

再評価に至った理由（1）

【完了工期】H29(前回) → H34(変更)

【理由】

・ 中流部の沿川が公共施設や住宅地が密集していることから、工事に関する調整に期間を要したため。



7

再評価に至った理由（2）

【事業費増】29.9億円(前回) → 36.0億円(変更)

【理由】

- ① 河口部掘削に伴う費用の増
- ② 橋梁工事の市街地施工に伴う費用の増

〔事業費増の主な内容〕

事業費増の内容	増額	主な増額理由
①河口部掘削に伴う費用の増	約4.0億円	河口部の河床掘削について実施設計を行った結果、掘削土の搬出が陸上から直接搬出することが困難（海上搬出）であることと、掘削後の断面では、既設の護岸が不安定となることが判明し、掘削前に既設護岸の補強が必要となったため。
②橋梁工事の市街地施工に伴う費用の増	約2.1億円	中流部の橋梁架替工事（2橋）にて役場・小学校等の公共施設や住宅等が近接していることから、施工機械の低騒音化を図ったことと、同条件により施工スペースが狭小であることから、仮設工にかかる費用が増加したため。
計	約6.1億円	

8

費用対効果分析

【B/C】2.19(前回) → 2.06(現行)

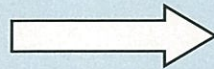
〔マイナス要因〕

- ・事業費の増
- ・工期の延長

〔プラス要因〕

- ・想定氾濫区域世帯数の増
世帯数(245世帯 → 277世帯)
- ・想定氾濫区域内従業員数の増
従業員数(383人 → 577人)

対応方針
(原案)



事業継続